

令和6年度病害虫発生予察情報 予報第12号（12月）

令和6年12月11日
発表：福島県病害虫防除所

1 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（－）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害 （萎黄病、炭疽病）	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を徹底する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
野菜・花き共通	コナジラミ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（－）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハスモンヨトウ	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、一部ほ場で幼虫の多発が確認されている。	寄生を確認したら、株元をよく観察し、丁寧に薬剤散布を行う。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

冬春トマト (施設栽培)	<p>■トマトキバガ</p> <p>本種は、体長約5～7ミリの微少な蛾で、南米大陸が原産です。トマトなどのナス科作物に大きな被害を与えており、幼虫が茎葉や果実をせん孔しながら加害します。</p> <p>今年度、県内4地点に設置したフェロモントラップ調査では、7月以降に誘殺が確認され、9月に増加しています。冬春トマト施設内で発生のおそれがあるので、ほ場をよく観察し、見つけしだい捕殺し、薬剤による防除を実施してください。被害様相の詳細については、令和6年度病害虫防除情報（令和6年8月28日付け発表）を参照してください。</p> <p>https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/648959.pdf</p>
-----------------	--

より詳しい発生状況や防除対策は、福島県病害虫防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。